

被爆 40 周年にあたって、反核・平和を訴える声明

1945 年 8 月に広島・長崎に原子爆弾が投下されて今年で 40 周年を迎える。

数千万人の犠牲者をだした第 2 次世界大戦の中でも未曾有の惨禍を生んだ広島・長崎の悲劇をくり返さないために日本国民のみならず世界の人々の間に“ノーモア・ヒロシマ”，“ノーモア・ナガサキ”の平和を守る運動が高まっている。かつて人類を破滅においこむ核兵器の開発と使用に手を染め、科学史上に大きな汚点を残した科学者も深い反省の上になんて、反核・平和の運動に身を投じてきている。

このような反核・平和の声にもかかわらず、とどまることをしらない核軍拡競争によって、核戦争の危険性はますます高まっている。この中で、科学者の側から「核の冬」に象徴される核兵器の使用による深刻な事態の予測が明らかにされ、核兵器は生態系の破壊と人類の破滅をもたらすものと警告が発せられている。

核兵器の開発と使用は断じて許してはならない。我々は日本と世界のすべての科学者に対して、新たな核兵器の開発と戦争に手をかすことのないように訴えとともに、我々も科学者の一員として、平和を求めるすべての人々と協力して、核兵器の廃絶と平和を守るために努力することを表明するものである。

1985 年 8 月 3 日

地学団体研究会第 39 回総会